



今週の展覧会は片岡繁美先生による日本画展です。会場には大小合わせて全 24 点の作品が展示されました。日本画は日本で発展した芸術分野であり、鉱石や植物などの天然の色を砕き鹿などの骨の髄から抽出した膠(にかわ)で定着させる技法です。膠とは、ゼラチン質のもので熱を加えると液体になり、常温にもどると固まる性質を持つため接着剤のような役割で顔料などを定着させることが出来ます。日本画の作品としては日本の自然物などのモチーフを思い浮かべますが、展示された作品の中では野の花やお寺などの日本的なモチーフの他に馬蹄形の横断アーチが架かる協会や、ヨーロッパの街並みなども多く描かれています。色彩の重ね方や筆使いは水彩や油彩のような大胆さと繊細さを感じられ、これらの表現は片岡先生独自の特徴でもあります。写真や油絵とは違う日本画特有の簡潔な描写が何百年と歴史を重ねたヨーロッパの街並みと相まって、静寂閑雅とした街中はどこか異空間に迷い込んだかの様に神秘的な印象を与えます。



片岡 繁美 日本画展

2016年5月12日～5月17日

画像・イラスト等の保存・転載・無断利用はお断りします

